

Relief

リリーフ

2013
January

vol.10



認定NPO法人日本レスキュー協会のセラピードッグは当財団の助成金で育成されています。

CONTENTS

連続講座 「いのち」を考える

助成事業 助成先の活動紹介
第2回活動助成報告会

救急フェア 身につけよう救命処置!!

TOPICS 活動助成先の活動予定
主催セミナーのお知らせ
編集後記



公益財団法人

JR-West Relief Foundation

JR西日本あんしん社会財団

「いのち」を考える



平成24年10月から12月にかけて開催した第2回連続講座は、新たにモニターで視聴いただく会場を増設し、第1回講座を上回る多数の皆様にご受講いただきました。

平成24年10月17日(水)

土師 守

「淳」著者

「家族の絆」

ご講演後、土師 守さんにお話を伺いました。

10月17日には、1997年の神戸連続児童殺傷事件により当時小学校6年生だった次男の淳君を失われた土師守さんから、淳君の誕生から事件発生までの状況、知的発育障がい児の親としての思い・葛藤など、その時々心の動き、事件後に家族がお互いを思いやりながら立ち直っていった状況などをお話いただきました。「息子が生きた証を私なりのやり方で残す必要がある」との強い思いから、現在も犯罪被害者の支援に関わる活動を続けておられる姿に深い感銘を受けました。

ご講演後、土師守さんにお話を伺いました。

一ご講演をお引き受けいただき、ありがとうございました。

今回の公開講座の講師を依頼された時、当初、私はお断りをしようと思っていました。理由としては、この「いのちを考える」というようなテーマでは、今まで話をしたことが

なかったことに加え、予定されている講師の方々を見ていますと場違いな印象を受けたからです。しかし、その後自分なりに考えて、私のような犯罪事件の被害者遺族が実際の経験を話すことは、そのことだけでも、「いのちを考える」ということの一助になるのではないかと思うようになりましたので、最終的には依頼を受けることにしました。

一タイトル「家族の絆」に込められた思いをお聞かせください。

私たちの次男は、事件の被害者ということ以外に、知的発育障がいという障がいを持っていました。今回の講演では、障がいを家族一人ひとりが受け入れることができるようになる過程や、悲惨な事件の被害から立ち上がる過程において、互いのことを考え、そしていたわり合うという気持ちが如何に重要であったかということをも、「家族の絆」という

題名にして話をさせていただきました。

一講演を終えられてどのように感じておられますか。

この度の講演では、私が経験した中で最も多くの方々の前で話をさせていただきました。私の思いをどの程度伝えることができたのかはわかりませんが、私の話を聞いていただいた方々には、「いのち」について考える上で、少なくとも一つのきっかけにはなったのではないかと思いますし、またそうであって欲しいと思います。

一社会に対するメッセージをお願いします。

JR西日本あんしん社会財団は、安全で安心できる社会づくりの一端を担いたいとのことで、いのちの大切さ、そして支え合い助け合う社会の大切さを啓発する活動等を行なっていると聞いています。私たちのような犯罪被害者・遺族にも、そして多くの弱者に対して優しい社会になって欲しいと切に希望しています。



土師 守さんの講演の様子

平成24年10月3日(水)

柳田 邦男 作家、評論家

「『物語を生きる人間』とケアの意味」



平成24年10月10日(水)

鷺田 清一 哲学者、大谷大学教授、前大阪大学総長

「いのちはだれのものか？」



平成24年10月24日(水)

高 史明 作家、評論家

「深く生きる」



平成24年10月31日(水)

上田 紀行

東京工業大学リベラルアーツセンター教授、
「生きる意味」著者

「日本社会の『不自由さ』を超えて—
支えが安心をもたらす社会へ」



平成24年11月14日(水)

梶田 叡一

兵庫教育大学名誉教授(前学長)

「生病老死と(いのち)の自覚」



平成24年11月7日(水)

高木 慶子

上智大学特任教授、上智大学グリーフケア研究所所長

「生きることの意味を探す」

平成24年11月28日(水)

「生きにくい社会にあって」

平成24年12月5日(水)

「生きることの意味を探す～2～」



平成24年11月21日(水)

村上 典子

神戸赤十字病院心療内科部長

「災害におけるグリーフケア」



「第2回連続講座を受講して」

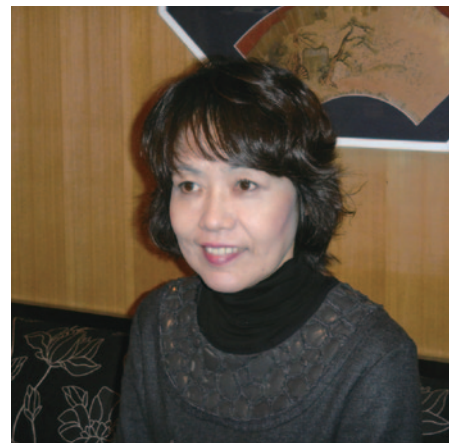
第2回連続講座を通して私が最も考えをめぐらせたことは、聴くことの大切さと、聴くことの難しさです。人が生きていく中で直面しうる困難について、どの先生からお話しがありました。そして、その渦中の人への理解を深める手立ての1つとして、言葉を或いは思いを「聴くこと」について触れられました。さらに何人かの先生は、「語ること」の辛さについても言及されました。東日本大震災の現地に赴かれ、そこに暮らす方々の実際を目の当たりにされての指摘です。

まず、被災地で「心のケアお断り」の貼り紙がなされるに至った経緯について思いを致さなければなりません。人が苦しい胸中を言葉にする時、どれ程の痛みを伴うかということや、どれ程の痛みと共に語られる言葉なの

か、ということを考えますと、ほんとうに身の引き締まる思いがいたします。

また今期の講座でとても嬉しかったことは、土師守さんにご登壇いただいたことです。娘を看取って間もない頃、私は土師さんのご本を手、「自分も生きていこう」と思ったのでした。その著者を本講座にお招きすることができ、ご本人の肉声で語られる90分間を、ふしぎな時空に身を置くような感覚で聴き入りました。

これからも、当財団の理事として、皆様が「聞きたい」と考えておられるようなお話しを届けられるように、そして「出会いたい」と思っておられるような素晴らしい先生に来ていただけるように努めて参ります。会場でお待ちしております。



Profile

坂下 裕子

JR西日本あんしん社会財団理事

こども遺族の会「小さないのち」代表。グリーフケア研究会事務局、こどものホスピスプロジェクト理事、日本小児科学会会員。長女を失ったことをきっかけに病气や不慮の事故で子どもを失った遺族の会を立ち上げ、悲嘆・遺族・いのちまつわるテーマに取り組んでいる。

参加された方からいただいたお声

生きることの意味、人生での自分の有り様、人格の形成の仕方、困難からの立ち直り方など様々なことを教わった。



「いのちは誰のものか?」「生命を単体として考えるのではなく、他の命との繋がりの中で考えることができるか?」「出会うとは、出ないと会えない」など、考えさせられ心に残る言葉が多くあった。



難しいテーマを分かり易く、ユーモアを交えてお話いただき感謝する。



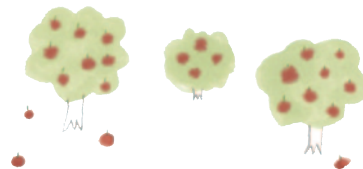
体験に基づく心に残るお話を聞くことができ、視野が広がった。



講師の方々に魅力があり、「いのちを考える」機会となるよいお話だった。



「いのちの大切さ」について、講師に学んだことを子や孫に語り継いでいきたい。



助成先の活動紹介

平成24年度は48件の活動、研究に対し助成を行なっています。(うち22件は東日本大震災に関連する活動)

「東日本大震災県外避難者(西宮市在住)交流イベント」

関西学院大学災害復興制度研究所 (0798-54-6996)
 人文・社会科学を中心に「復興」制度に焦点を合わせた研究として、学生を中心とした震災
 救援ボランティア活動などを行っている。



↑
 10月28日(日)、神戸市立フルーツフラワーパークで東日本大震災により西宮市に県外避難されてこられた方々の交流を行った。福島県の原因の避難地域に指定されたことでやむなく避難されている方、自主避難されている方など境遇は様々ではあるが避難生活が長期化しており、家族が共に暮らせない状況で不安や悩みが尽きない方々にとって情報交換に留まらず、苦労話等の気持ちを語り合える場となり有意義な場となっていた。また、子どもたちは学生ボランティアと共にパーク内で身体を動かして楽しんでいた。



「ありがとう・おかげさま・おたがいさま～作業所復興応援・支援市」

ガリレオクラブインターナショナル (090-1718-0625)
 日本国内外において弱い立場にある人や何らかの不自由に直面している人を支援する様々な活動に取り組んでいる。



↑
 11月10日(土)・11日(日)、神戸市のメリケンパークに東日本大震災で被災された作業所の方を招待し、阪神淡路大震災で被災された作業所の方と一緒に応援市が開催された。視覚障害者の方が手指の感覚のみで刺繍を施したティッシュケースやブックカバーなどの小物や被災地で収穫されたもち米の赤飯セットなどバラエティ豊かで、それぞれの作り手の想いが込められた商品が並んでいた。会場には来なかったスタッフの分まで伝えようと、来場された方々へ熱のこもった案内で応援市を盛り上げていた。

平成23年度活動団体の報告会を開催しました。(平成24年10月30日(火))

当財団では、助成するだけでなく助成先の1年間の活動成果を社会に還元すると共に、助成先同士のネットワークの構築にお役に立てればという思いから報告会を開催しています。



(理事長からのコメント)

公募助成事業は、財団設立の平成21年度以降、当財団の中核事業として継続的に実施してまいりました。昨年から東日本大震災の被災地・被災者への支援活動も助成対象に加え、財団設立から3年あまりで、計113件、総額1億円を超える助成をさせていただいております。今回は、平成23年4月から今年3月までに活動された11団体から活動内容の報告をしていただきました。活動内容は様々ですが、どれも「安全で安心できる社会」の実現に寄与するもので、財団としても感謝申し上げますとともに今後、益々のご活躍を期待いたしております。近年、防災意識の高まる中、引き続き「安全で安心できる社会」の構築に寄与する活動の一端を担えればと考えております。



身につけよう救命処置!!

平成 24年度の「救急フェア」は、5月19日(土) JR三田駅から始まり、11月18日(日) JR尼崎駅までの計12箇所で開催することができました。

平成24年10月27日(土) 救急フェスタ in OSAKA STATION CITY (JR 大阪駅時空の広場)



昨年5月に開業1周年を迎えた大阪ステーションシティにて大阪市消防署のご協力をいただき“救急フェスタ”を開催しました。JR西日本社員(応急手当普及員有資格者)の手ほどきで救命処置を体験してもらうコーナーのほか、新たな取り組みとして当財団の

助成先であり、心肺蘇生法の普及・啓発活動に取り組んでいるNPO法人大阪ライフサポート協会に「PUSHコース講習会」を行っていただき60名近くの方に体験していただきました。

PUSHコース講習会 (心肺蘇生の中で最も重要な胸骨圧迫とAEDの使い方を学ぶ。)



NPO法人大阪ライフサポート協会
理事長 西本 泰久さん

1時間ほどの講習会を2回行い、多くのご参加をいただきました。ご参加の皆様は大変熱心に講習を受けられ、一生懸命胸骨圧迫の練習をされていました。

時空(とき)の広場の特設会場でPUSHコース講習会を行いました。PUSHコース講習会とは簡易型蘇生ボックス「あっぱくん」を受講者1名が1組使用し、胸骨圧迫とAEDに関する短時間の講習を行うものです。PUSH(押す)とは、目の前で人が倒れた時に、「胸を押す」「AEDのボタンを押す」「蘇生を行う人の勇気を後押しする」ことから名付けています。



平成24年10月6日(土) JR高槻駅 アクトアモーレにて



JR高槻駅ではNPO法人高槻ライフサポート協会をはじめ、消防・医師会・行政・自治会・大学・JR西日本にご協力いただきました。



NPO法人高槻ライフサポート協会
柴田 康宏さん

JR高槻駅隣接の大型商業施設アクトアモーレでAED、応急処置の市民向け講習会が開催されました。救急に対する市民の関心も高く、質問したり説明に聞き入ったりしておられました。JR西日本のマスコット・イコちゃんも登場、京都橘大学の救命士コースの学生と高槻市消防本部特別救急隊による寸劇もわかりやすいと好評でした。JR高槻駅の副駅長や当協会の富士原理事長(大阪府三島救急医療センターのセンター長)も救急処置・AEDの重要性を熱心に語り、年齢を問わず多くの方が参加しておられたのが印象的でした。



PICK UP

救急フェア担当 梅津 です!

平成22年度から始まった「救急フェア」の事業立ち上げから携わり、一人でも多くの方々に救急フェアに参加していただき、初期救護の重要性を知っていただけるよう、開催駅周辺の自治会へのお声がけを積極的に行っています。特に嬉しかった事は、JR西日本米原列車区や奈良市消防局の方から、救急フェアをやりたいと申し出をもらったことです。そのお陰で、JR長浜駅(滋賀県)やJR奈良駅(奈良県)で今年度初めて「救急フェア」が開催でき、近畿2府4県に広げることができました。少しずつこの取組みの輪が広がってきていることを実感できた1年でした。

内容は単純でとても地道な活動ですが、この3年間で「救急フェア」が多くの方々を結びつけ、新たなつながりを生んでいることは確かです。こうしたつながりを更に広げられるようこれからも取り組み続けます。



TOPICS

活動助成先の活動予定

現在助成を行っている団体の今後の活動予定をご紹介します。詳細につきましては、各団体へ直接お問い合わせください。

認定 NPO 法人 日本 レスキュー協会

見学会

(TEL:072-770-4900 又は
E-mail:info@japan-rescue.com)

日程 平成 25 年 2 月 10 日 (日)、3 月 10 日 (日)
各日とも 10 時～12 時

場所 認定 NPO 法人日本レスキュー協会
(兵庫県伊丹市下河原 2-2-13 ※最寄駅 JR 北伊丹駅徒歩 10 分)

内容 緊急時に十分な活動ができるよう災害救助犬の認知度向上を図るため、模擬瓦礫等を利用した災害救助犬の訓練の様相を公開します。当財団の助成金で育成されている災害救助犬の成長や訓練の過程もご紹介します。(定員 40 名、電話又はメールにて要事前申込み、参加費無料)

NPO 法人 オーシャンゲート ジャパン

子どものための 水面安全レスキュー サポーター養成

(FAX:06-6212-6277 又は
E-mail:oceangate@fancy.ocn.ne.jp)

日程 平成 25 年 1 月 27 日 (日)、2 月 11 日 (月・祝)、3 月 3 日 (日)
各日とも 10 時～17 時半

場所 白崎海洋公園 (和歌山県日高郡由良町大引 960-1 ※最寄駅 JR 紀伊由良駅タクシー乗車 15 分。または、最寄駅より送迎相談可)

内容 乳児・小児、大人のダミー人形を用いて最新の応急手当や人工呼吸法を学べるだけでなく、プールや海洋でのレスキュー技術、サポート方法が習得できる講習会を開催します。(定員 12 名 (最少催行人数 3 名)、FAX 又はメールにて要事前申込み、参加費 4,200 円)

灯人

第 4 回 「灯りでつながる夜」

(TEL:080-1472-3079 又は
E-mail:tomoshibi0425@gmail.com)

日程 平成 25 年 2 月 23 日 (土) 17 時～20 時 雨天時翌日延期

場所 三軒寺前広場
(兵庫県伊丹市中央 2 ※最寄駅 JR・阪急伊丹駅徒歩 5 分)

内容 たくさんの灯りを灯したキャンドルナイトにより、JR 福知山線脱線事故でできたつながりを感じ、心のケアをお手伝いするきっかけとなる場をつくり、パネル展示・音楽演奏等により癒しの時間を提供するイベントを開催します。

NPO 法人 大阪ライフ サポート協会

応急手当・市民セミナー 2013

(TEL:06-6370-5883 又は FAX:06-6370-5884,
E-mail:osakalisa@comet.ocn.ne.jp)

日程 平成 25 年 3 月 31 日 (日) 13 時～16 時半

場所 大阪国際会議場
(大阪府大阪市北区中之島 5-3-51 ※最寄駅京阪中之島駅徒歩 5 分)

内容 心臓突然死を減らすためには、心停止を未然に防ぐための「応急手当」が極めて重要なことから、初動段階の「応急手当講習」を中心に市民を対象としたセミナーを開催します。(定員 100～150 名 (先着順)、電話・FAX・メール・ホームページのいずれかで要事前申込み、詳細は 2 月頃に決定予定。詳しくはホームページ: <http://osakalifesupport.jp/> をご覧ください)

NPO 法人 神戸定住外国人 支援センター

すきやねん! KFC キャンプ in 神戸しあわせの村

(TEL:078-612-2402 又は E-mail:kfc@socia-b.net)

日程 平成 25 年 3 月 25 日 (月)～3 月 30 日 (土)

場所 しあわせの村 (兵庫県神戸市北区山田町下谷上字中一里山 14-1 ※最寄駅 JR 三ノ宮駅より神戸バス (66 系統) 30 分)

内容 春休みの期間を利用して福島県を中心とした放射能の影響下で生活する子どもと保護者を招待し、豊かな自然の中でスポーツや課外活動を楽しむ存分楽しめるキャンプを行います。(要事前申込み、詳しくは TEL にてお問合せください)

関西学院大学 災害復興制度 研究所

東日本大震災県外避難者 (西宮市在住) 交流イベント

(TEL:0798-54-6996)

日程 平成 25 年 2 月 24 日 (日)

内容 東日本大震災により西宮市に県外避難されてこられた方々の交流を行います。(参加費 1 家族 500 円、詳しくは TEL にてお問合せください)

いのちのセミナー

東日本大震災から 2 年を迎えるのを機に、「いのち」を見つめるセミナーを開催します。

日時 平成 25 年 3 月 16 日 (土) 13:30～16:00

会場 神戸新聞松方ホール (神戸市中央区東川崎町 1-5-7 神戸情報文化ビル 4 階 ※JR 神戸駅より徒歩 10 分)

定員 500 名

募集締切 平成 25 年 2 月 28 日 (木)

内容 ◎講演 復元納棺師 笹原 留似子氏

「いのちの原点回帰～東日本大震災：復元ボランティアからみたいのち～」

◎活動報告 社会福祉法人神戸いのちの電話

申込方法 ホームページ又はハガキにて要事前申込み

詳しくはホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) や JR 各駅のポスターをご確認ください

編集後記



約一年振りに日本レスキュー協会のセラピードッグ 皆輪(みわ)・温(はる)にこりに会いに行ってきました。セラピーの現場で着実に力をつけているようで何とも言えない表情や仕草に私もほっこり癒されてきました。これからの成長が益々楽しみです。(編集者：小山)